

健康一口メモ

～臨時号：麻疹(はしか)について～

今年も沖縄県を中心に各地で麻疹(はしか)の感染者が急増しています。時折、日本で流行するはしか。どんな病気で、どんな対策が必要なのか知っておきましょう。

1. 麻疹(はしか)とは

はしかは、麻疹ウイルスによって引き起こされる急性の全身感染症として知られています。麻疹ウイルスの感染経路は、**空気感染**、**飛沫感染**、**接触感染**で、ヒトからヒトへ感染が伝播し、その感染力は非常に強いと言われています。免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症し、一度感染して発症すると一生免疫が持続すると言われています。

2. 症状

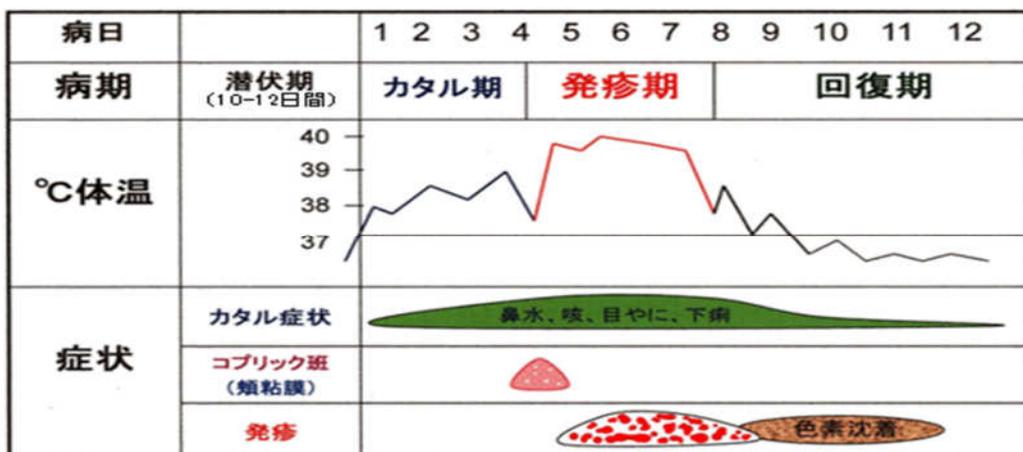
①前駆期(カタル期)・・・感染後に潜伏期10～12日を経過して発症します。

38度前後の熱や倦怠感・咳・くしゃみなどが2～4日続き、口腔内にコプリック斑と呼ばれる赤みを伴った白い小斑点が出現します。



②発疹期・・・その後一旦解熱したのち、半日ほどで再び39～40度の高熱が出現し、赤い発疹が体中に出現します。咳・鼻水はいつそうひどくなり、下痢を伴うこともあります。

③回復期・・・発疹出現後3日程度で熱は下がり、徐々に咳・鼻水も改善してきます。発疹は退色後5～6日ほどで皮がむけるように取れます。就学時であれば解熱してもそれから3日間は出席停止の措置がとられます。大流行する恐れもありますので、症状が出たら素早く受診し、医師の指示を仰ぐ必要があります。



3. 予防について

はしかは空気感染するため、手洗いやマスクだけでは予防ができません。そのため、ワクチンにより人工的に免疫力をつけることが予防に有効です。

現在の定期予防接種対象時期

- ・第1期：月齢 12～23 ヶ月（1 歳児）
- ・第2期：小学校入学前年度の 1 年間にある児



- 麻疹・風疹混合ワクチン（MR ワクチン）1 回接種による免疫獲得率は 93～95%以上、2 回接種による免疫獲得率は 97～99%以上と報告されています。
- ワクチンによる免疫の持続期間は 10 年程度と考えられています。接種してから 10 年以上経過していたら、血液検査で抗体の有無を調べ、抗体のない場合は予防接種することをおすすめします。
- 抗体獲得にはおよそ 2 週間程度要します。
- 女性については、接種後 2 か月間は妊娠を避ける必要があります。

※生年月日によってワクチンが定期予防接種でなかった方・1 回接種の方がいます。一度、ワクチン接種状況・はしかにかかったことがないか確認してみてください。

《平成 2 年（1990 年）4 月 2 日以降に生まれた人》

2 回接種の制度が導入された対象の年齢です。予定通りに受けていれば 2 回、はしかのワクチン定期接種を受けています。

《昭和 53 年（1978 年）から平成 2 年（1990 年）4 月 1 日生まれの人》

昭和 53 年（1978 年）からは義務接種となりました。予定通りに受けていれば 1 回ははしかのワクチン定期接種を受けています。

《昭和 53 年（1978 年）以前に生まれた人》

定期接種でワクチンを接種する機会はありませんでした。しかし、過去に自然感染して発症したか、気付かない程度の軽症を経験し、すでに免疫を持っている人が多数です。

4. 治療について

発症すると特異的な治療法はなく対症療法が中心となります。肺炎、中耳炎を合併しやすく、患者 1,000 人に 1 人の割合で脳炎が発症すると言われています。死亡する割合も、先進国であっても 1,000 人に 1 人と言われています。

はしか患者への接触後から 72 時間以内にワクチン接種をすると、発症または重病化を防ぐことができます。ただ、確実に発症を防げる訳ではないので、疑わしい症状が出たら学校・職場を休み、医療機関をご受診ください。

参考：麻しん・風しん（厚生労働省）

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/kekkaku-kansenshou21/index.html

麻しん（はしか）に関する Q & A（厚生労働省） <http://www.mhlw.go.jp/qa/kenkou/hashika/index.html>

麻疹とは（国立感染症研究所） <http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/ma/measles.html>

